

茅風



Breeze from the field of thatch-grass

2006年7月1日  
森林塾青水  
事務局便り  
茅風通信18号



古き世の火色ぞ動く野焼きかな 蛇笏

4月～6月の活動報告(事務局)..... 1  
 特集 : オプニングプログラム・野焼き  
 念願の野焼き体験に感謝/大畑武子..... 2  
 全員の気持ちが一つになって/三好正子..... 2  
 立派な茅を生やすためには.../湯本恵子..... 2  
 野焼きとフンコロジエのことなど/高野史郎... 2  
 特集 : 第2回講座「モズ村・ふじわら」  
 ミズナラ林に道をつくる  
 雪解け水は甘かった!!/小野丞..... 3  
 気持ちの良い汗をかきました/内野みつ子..... 4  
 ミズナラ林に学ぶマツシヨンの環境づくり/伊東伴尾... 4  
 炭焼きの窯跡で身体が震えた/高橋志津子..... 5  
 稜線の鞍部から滝が.../川端英雄..... 5  
 30年前の上の原の写真紹介/町田茂..... 5  
 7月～9月の活動計画のお知らせ(事務局)  
 第3回講座「モズ村・ふじわら」のご案内... 6  
 編集後記～塾長のつぶやき～..... 7

4月～6月の活動報告

事務局

4月20日(木): 井上、清水が文化庁訪問、「文化財の森」事業についてのヒアリング。上の原の森の適用可能性、大と判断。

4月22日(土): 野焼予定日を1週間後に控えて、現地の状況を直前視察(清水)。除雪したエリアの積雪5cm、管理道は70～80cm、非除雪草原では120cmも!! 車でおつき合いいただいた小野さん・湯本(恵)さん、ありがとうございました。

4月26日(水): 現地・フィールドに思わぬ降雪。29日(土)に予定の野焼きを1週間後に延期止むなしと決定、ただちに関係者全員に通知。

5月6日(土)～7日(日): 講座「コモズ村・ふじわら」のオープニングプログラム“野焼き並びに山の口開け”実施。塾の会員・会友23名、地元から林(正)区長はじめ10余名、みなかみ町からも腰越助役以下6名、その他報道関係者・写真愛好家・一般を含め80人余が参加。詳しくは後期・特集 ご参照。

5月13日(土)～14日(日): 講座「コモズ村・ふじわら」・第1回“ミズナラ林に道を作る( )”開催。日帰りも含め参加13名で、初日は林内に発見された旧・木馬道(キンマミチ)の整備、2日目は須原尾根近くに発見された滝に至る道のルート設定。先導いただいた惣一郎さん、高田さん、広川さん、松戸さん、ありがとうございました。

5月18日(木): 森づくりフォーラムに坂井事務局長・松井理事を訪問(清水)。11月初に予定の「茅葺き体験ツアー」の企画・打合せ。

5月20日(土): 麗沢中学キャンパスにて樹木観察会。当塾より8名、日大生(生物資源科学部)32名の計40人のインストラクターで120人弱の中学1年生のお相手。何と贅沢な観察会!! 紅花栃の花がまことに綺麗でした。

6月10日(土)～11日(日): 講座「コモズ村・ふじわら」・第2回“ミズナラ林に道を作る( )”開催。日帰り組を含め参加13名で、初日のお昼をわいわいがやがや自炊を楽しんだあと、滝に至る道づくりに汗を流した。広川さん、今回も先導役ありがとうございました。これで、林内に整備された道の全長はおよそ2km。参加された皆さんの感動レポートを後記・特集 にまとめました。

6月12日(月): 森づくりフォーラム訪問。松井理事と「茅葺き体験ツアー」の具体化プラン打合せ、大筋合意に達す。

4月12日、5月10日、6月7日の各水曜日に月例幹事会開催。



## 特集 : オープンアッププログラム・野焼き

### 念願の野焼き体験に感謝

/大畑武子

念願の野焼きを体験させていただき感謝しています。炎が移っていく様、立木の蔭を燃え昇っていく様に感動しました。燃え了る頃になって、鳥の声、沢の流れの音に気づきました。

翌朝、再び末黒野になった焼跡を確認し、その中に既に春のいぶきを感じました。町田さんから茅葺きの方法をお聞きし、文化財保存の大切さ、ご苦心を知りました。塾の方々、地元の皆さんのお蔭で、ゆったりとした2日間でした。お食事もお自然の恵みを美味しく作って下さい、本当のご馳走でした。

ありがとうございました。

声をのむ ただ立ち尽くす 野焼かな  
末黒野の 一樹直立 生きのこる たけ子



末黒野

### 全員の気持ちが一つになって

/三好正子

野焼きには一昨年の1回目と今回の2度、参加しました。前回よりも広範囲に点火され盛大に終了してとても良かった。全員の気持ちが本当に一つになり、残り木を集める作業も楽しく、火の色がとても暖かく感じられました。

夜中の雨も早くに上り翌日、フィールドの雪上ハイクが出来てとてもよかった。

「幸新」の昼食はいつも乍ら、ここでしか味わえない食事を楽しめる。今回のトリアシショウマはたいへん美味でした！

山桜と山々の若葉。すばらしい2日間でした。カヤブキ屋根！すばらしい日本の大切にしたい文化だとつくづく思いました。

### 立派な茅を生やすためには・・・

/湯本恵子

今年のゴールデンウィークは、素敵かつ楽しい経験ができました。素敵かつ楽しい経験、人々との出逢い・・・それは、森林塾青水の野焼きです。

昨年、知人に連れられ参加した森林塾コモンズ・ふ

じわら。知らぬがままに、参加した私に手渡されたのはなんと、鋸。なにやら、かや(すすき)の発育を邪魔する白樺等を伐採する作業をするとのこと。さっそく始めてみると、ふいふ・・・なかなかさまになる様子(自画自賛)。

この時すっかり自然の楽しみを味わった私は、今回の野焼きもわくわくしていたのは言うまでもなく・・・。立派なかやを生やすためには、野焼きは大事な過程のひとつだそう。

各自方々に別れ、風下から点火。冬の間、雪の下で枯れ草におおわれた大地は、火の勢いと共に真っ黒な焼け野原となりました。「これで今年も良いかやが生えるぞ。秋のかや狩りが楽しみだね。」と参加者の方。もちろん私も楽しみです。

地元のかやふき職人さんの話を耳を傾け、山菜の手料理をいただきながら、夜がふけていきました。

さわやかな汗を流し、自然に勤しむのも気持ちの良いものです。おやしギャグを聞きながら・・・。

### 野焼きとフンコロジューのことなど

/高野史郎

**野焼きの日:**1週間延びて5月6日になったけれど、奇跡的に晴れてよかった。炎が走って緩い斜面を駆け上る。そのあとは黒い藁灰状態に。何百度かに燃えるのは一瞬なのかもしれない。後に残ったウツギなどの太い枝や幹を集めて燃やす。“ここで燃やしちゃうったいない。この太い幹ならば、2~3回分のお風呂の燃料になる！”といった若いお兄ちゃんは、町田社長の会社の人？ そういう視点を忘れていました。

**雨の夜が明けて:**翌朝、霧にけふる山なみが素晴らしい。全部見えないほうが、ロマンティックということかな？ うす茶色・あるいは薄墨色の景色のあちこちから、黄緑色が広がっていくことの不思議。新芽の色が樹によって微妙に違うのはどうして？ 一粒のタネの中にも先祖伝来の遺伝情報とかやらが、ぎっしり詰まっているということなのでしょうね。サクラの花も、林がバックになかったら、つまらない。



茅場に点火する藤原の古老

### 茅場で野焼き

藤原上ノ原旧入会地

5月6日、藤原上ノ原の旧入会地で茅場の野焼きが行われました。  
里山の保全・再生に取り組んでいる東京都の市民団体「森林塾青水」と地元の古老が協力し、50年ぶりに復活。今年の春で3回目を迎え、町の「春の風物」となっています。関係者やギャラリィが見守るなか、たいまつの種類から点火され、約2ヘクタールを30分で焼き尽くしました。

みなかみ町広報誌

**雨の音**：大雨かと思って心配した雨の音は、トタン屋根のせいだった。周りの家の、屋根の勾配が急なのは、雪が滑り落ちやすいようになっているのでしょうか。市街地の屋根には、樋がついていて雨を集める。“大きい木が茂っているから、落葉で詰る”などと文句をいわれるけれど、ここですべり落ちた雪が家を取り囲む真冬の何か月かがあったのですね。

**フンコロジー**：野焼きしたあとに、動物の糞が落ちていた。外国では“サイン”とか“ビジティングカード”などと気取っているが、この国の下々の人は“フンコロジー”と呼ぶ。生きているものが通った証拠の品。必要としなかった食べ物の残りが、消化器の末端から下界へ出る！ その形から、目(もく)または科レベルの動物の種類が判断できるといわれる。食べものの種類と消化器の構造がわかる！ 肉食だと臭いけれど、植物食の動物は繊維ばかり。なぜか切り株の上にノウサギの糞が焦げて落ちていた。ヤケクソ状態！ 牛糞を燃料にする国もありましたね。

**フキノトウ**：あぜ道で取ったフキノトウは、山の幸。すぐに天ぷらになったのでしょうか？ フキは雌雄異株、つまり雄花と雌花が別の株に。ルーペで見ると細かい細工に驚かされます。緑色の三角の包葉に包まれてたくさんの頭花が、そのひとつひとつに50前後の小さい花が詰っている。雄花は花粉が出ると真ん中が黄色に見えるけれど、リンドウみたいな白い花びらがすごく可愛い、などと気がついてくれた人いましたか？



**青い鳥**：帰り道、道路沿いに幸せを呼ぶ青い鳥が見送ってくれた。ブルーの鳥は何種類かいますが、オオルリは、木のテッペンが好き、だからあんな低い所の枝先に来るのは、ルリビタキかコルリでしょう。目のあたりの模様は？ お腹の色は何色でした？ 朝、遠くでツツドリが鳴いていましたね。

**道の駅**：上毛高原駅の手前、道の駅とかに初めて寄り、山菜などを買った。あとになって、ハリギリ、コシアブラ、タラノキ、ウドとウコギ科が多いのに気づいた。するとヤツデも食べられるのかな。歯ごたえがあるだるなあ。いつもは駅に直行してしまって、ここに遺跡や売り場があることも知らなかった。スローライフを勧めようなどといいながら。

**特集**：第2回講座「モズ・ふじわら」  
ミズナラ林に道をつくる

雪解け水は甘かった！！ /小野丞

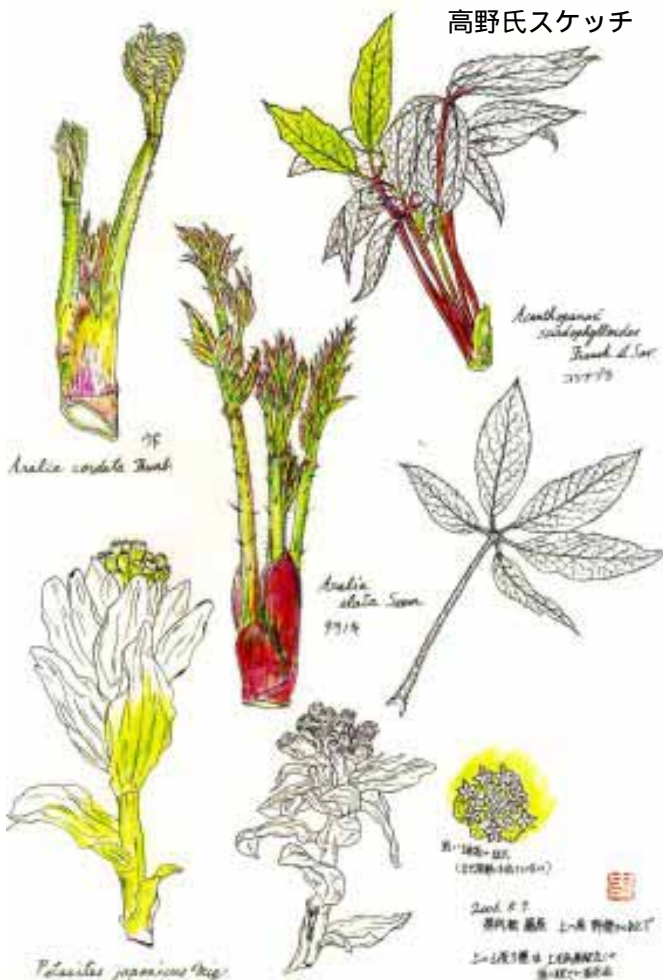
今回は山菜を使っの自炊と、滝までの新道を開ける作業でした。

まずは自炊、蕨やウド、ニンニクの芽にふきのとう、現地で取れた山菜で作った料理のまさにフルコースとも言えましょう。デザートは手作りの苺ジャムをのせた甘酸っぱいヨーグルト。もう最高！！

お腹がいっぱいになった後は、いよいよ滝までの新道を開ける作業。しばらく足を踏み入れなかった山は草や木が伸び放題で。邪魔な草や枝を伐採し滝までの道を開けていきます。時たま深呼吸してみる。新緑の香りが心地いい。

いよいよ滝に到着。雪解けの水が心地よい音とともに流れています。乾いた喉に一口飲んでみると、「甘い！！」。自然の水の甘さ。さっそくペットボトルに持ち帰り、家でコーヒーを入れてみました。美味しいんです。とにかく美味しい。口あたりがやわらかくて、コーヒー豆を一段とひきたてて。

今度行く時は、滝の水流がどのくらいになっていることだろう。



## 気持ちの良い汗をかきました /内野みづ子

二日間お世話になりました。食事もすべておいしかったし、仕事も楽しく本当に気持ちのよい汗をかき、程よいところに冷たい瀧の甘い水に自然の恵みをいただける自分と仲間感謝感謝の二日間でした。

6月7日夜インターネットを見ていた夫が、「今度の森林えらいことになっているぞ、昼食担当が内野だって」と・・・。えー、でも面白そうね、早々海老沢さんにTEL、献立はお任せしますとの事、焼く実から道具類の準備、近所のスーパーで買うものと月夜野のハーベスト(産地野菜売場)で買うものとリスト化、当日早めにハーベストでいろいろ購入し、現地へ・・・。

献立は男性陣・女性陣の協力で、絹さやの卵とし、ナメコ入りの大根おろし、ニンニクの芽、ウドの油いため、ワラビの和え物、フキ味噌、野菜サラダ、藤原の水で炊き上げた五穀米、具沢山の味噌汁など、草原に広げワイワイガヤガヤ。デザートはイチゴジャム入りのヨーグルトと蒸しパン。

夕食迄にお腹をすかすように作業を頑張らねばと、山菜に目を配りながら道作り。枯れ草を掻き分けると青白く輝く銀竜草があちこちに、大木を道端に動かすのにか弱き女性2人を含めた4人で悪戦苦闘。水音と涼しい風、緑色の苔から滴り落ちる滝の水を頭にふりかけ、しばし休憩。主人いわく、広川さんの説明によると滝の上部は湯の小屋と藤原に流れる分水嶺とのことなので、滝の名前は「分水の滝」で良いのではないかと・・・。



夕食は期待通りの山菜中心の料理と手打ちそば。

11日早朝、女性3人であさつきを採りに、昨年親男さんに案内していただいた場所に行き、ワラビ、ウド、タラの芽、あさつきを採取。山道の補修でも、2年前にヤマブドウのツルを力を合わせて引張り取った場所で、アスパラのような見事なワラビを収穫、山の神に感謝です。

秋には上の原のナメコを収穫し、キノコ汁を楽しみにしています。

## ミズナラ林に学ぶマンションの環境づくり /伊東伴尾

森林塾のフィールドワークになかなか参加できないのですが、今回清水塾長の「四樹会」例会を兼ねてのことで、参加させていただきました。今回の参加で

いくつか実務に参考になる知識を得ることができましたので、紹介いたします。いずれも海老沢氏よりお教えいただきました。



### ブナノキの生育要因

フィールドの標高は1,000~1,200mで、1,200m未満の優先種はミズナラですが、1,200mになるとブナノキが出現します。1,200m未満でも柏市の麗澤中学のようにブナノキを植栽し維持している例がありますが、一般的に自然分布ではありません。これはなぜかと前から疑問に思っていたのですが、これは温暖なところではカミキリムシの被害で樹勢不良や倒木で衰退するとのことだそうです。カミキリムシ等の害虫の生育圏ではブナの生育ができなく、反対に寒いエリア(フィールドでは1,200m以上)ではカミキリムシが生育できないので、ブナが生育するとの構図です。なんと良くできた自然生態の仕組みでしょう。

### ミズナラ林に学ぶ環境づくり

ミズナラ林は比較的明るく柔らかな緑が生育していて、その中を散策すると快適で心身が癒されます。ふと足元も見ると多くの植物が生育しています。ミヤマガマズミ、ギボウシ、クロモジ、シャガ、フタリシズカ、ヤマツツジ、アオダモ、ガクアジサイ、ハナイカダ、リョウブ、アカショウマ、ハウチハカエデ等です。花は咲くものやカラーリーフプランツもあり、やさしい緑です。

一方、マンションは日陰になる場所が多く、一般的に緑化はサザンカ、イヌツゲ、アオキ、ヤツデ等暗く陰気な樹木を使うことが多いのが現状です。ここにミズナラ林のような半日陰の環境では似た植物の使用が可能ではないでしょうか。

マンションの住人にミズナラの爽やか環境が提供できれば素晴らしいと思います。

### <ミズナラ林に学ぶ、快適なマンション環境づくり案>

ミズナラ林の土壌のような有機質の多いはふかふかな土壌づくり

ミズナラ林のような起伏のある造成

ミズナラ林のような落葉樹による植栽

ミズナラ林のような林床植物の採用

いかがでしょうか。久々に森林塾の皆様との出会いと共に、実務に役立つ知見を得て、有意義なコモンズ参加となりました。清水塾長はじめお世話にいただいた関係者の皆様ありがとうございました。

炭焼きの窯跡で身体が震えた /高橋志津子

炭焼き窯跡にようやくたどりつきました。すでに上部は崩れ落ち樹木が覆いかぶさっていました。阿部惣一郎さんのおじいさん(?)がここで遭難したことを聞き、身体が震える思いでした。私は小学校低学年の頃、深谷の町はずれに住んでいました。ある晩、近所の農家の家々の異様な雰囲気、大人のどなり声、異常な何かが起こっている・・・そういった状況に恐れをなしたことが走馬灯のように思い出されたのです。それは遅霜だったのです。

そのとき、惣一郎さんは何歳だったのでしょうか。

自炊。キャンプを思い出し、楽しい時間でした。内野さん(夫)作の包丁は切れ味もさることながら、まるで「小刀」のようでした。内野さん準備をありがとうございました。

11 日後半単独行動をし、草原内に侵入した木を切りました。(気になっていたのです)満足！満足！

追伸 < w杯 日本負けで残念 >



稜線の鞍部から滝が・・・ /川端英雄

未だによく分からない。理解できない。

山の稜線の鞍部から滝が流れ落ちてくる事情が分からない。だって、滝はふつう、高いがけから流れ落ちるものではないか。地中をゆっくり時間をかけて集まってきた水脈が、断層から顔をだしたのが滝だとな

がいあいだ信じてきた。

稜線の鞍部に水が集まり滝になるのなら、もっと沢山の滝があちこちに見られてもおかしくない。でも、水はたしかに稜線のあたりから流れ落ちてくるようだが、同じように稜線の向こうにある湯の小屋側にも水は流れ落ちているのだろうか。



この滝は比較的最近出来たんだろうな。熊打ちがさかんに行われていた時分からあったなら、もうすでに何らかの名前がついていただろう。十郎太沢 のように。

人がどう考えようが、滝は流れ落ちる。自然のままに、ありのままに。自然は不可思議。理屈を超え、あるがままに存在する。

滝は、仏の微妙(みみょう)の道を幾十億年かけて流れきて、いま、ちょっと顔をのぞかせたのだろうか。南無・・・・・・・・。

口に含んだ水は軟らかくて甘い。甘露。お茶をたてたらおいしいだろうな。

終わり

追伸 サッカー、力不足の日本負けでもしかたがない。マスコミ、特にNHKの騒ぎすぎが問題。冷静に自分を見る癖をつけなきゃ、いつか来た道へ行きかねない。



上の原高原の 30 年くらい前の昔の写真です。現在のゴルフ場も含めた広大な茅原と、当時の茅刈り風景ですが、ススキの背が大変高いですね。

写真提供；町田茂さん(会員)

- 7月13日(木):「藤原ガイドマップ」作りの第1回打合せ  
 7月14日(金):麗沢中学「水源の森フィールドスタディ」の受入れ  
 7月23日(日):「藤原ガイドマップ」作りの第2回打合せ  
 7月24日(月):川越小学校「里山探検クラブ」の受入れ  
 8月17日(木):諏訪神社例大祭(奉納獅子舞・相撲,など)  
 8月19日(土)～21日(月):日本造園植物研究会「上の原・入会の森スタディツアー」受入  
 8月25日(金)～26日(土):藤原区民祭(花火、マラソン大会、など)  
 8月27日(日):藤原湖一周マラソン大会  
 9月9日(土)～10日(日):第3回講座「コモンズ村・ふじわら」 “旧道・青木沢峠の復活( )”  
 詳しくは、下記のご案内をご参照下さい。  
 7月5日、9月6日の各水曜日に幹事会開催。

### 講座「コモンズ村・ふじわら」 第3回 旧道・青木沢峠の復元( )

集合場所・時刻...JR上毛高原駅に10時20分

<上越新幹線>東京 8:52 上野 8:58 - 大宮 9:18 - 高崎 9:52 - 上毛高原駅 10:14

宿...民宿「雪割草」 群馬県みなかみ町藤原大芦 電話:0278-75-2217

参加費:一般1万円、会員8,500円(1泊2食の宿泊費、保険代、2日目昼食代など)

その他、集合駅までの交通費が必要

服装・持ち物など...長袖、長ズボン、手袋(軍手)など、山道歩き、作業に適した服装でお願いします。  
 水筒、雨具も必携です。

初日の昼食...暖かい「きのこ汁」を作ります。食器、箸をご持参ください。

また、おにぎりなど主食類、その他は各自、持参してください。

緊急・当日連絡先...海老沢携帯(09075528557)・清水英毅携帯(09035752283)

#### 【第1日目】9月9日(土)

時刻	内 容	場 所	指 導
10:20	上毛高原駅集合		
11:30	事務所(旧教員宿舎)へ		
12:00	昼食(弁当持参。きのこ汁を現地で作ります)	森林塾青水事務所	内野さん
13:30	青木沢峠を歩く ・道を歩いて確認...ルートマップ用のメモをとる。作業方法、作戦など確認 ・その他樹木実習など	青木沢峠	林 久さん 林親男さん
17:00	民宿へ	「雪割草」	
18:00	夕食 交流会・藤原ガイドマップ作り打ち合わせ	民宿	林武さん

#### 【第2日目】9月10日(日)

時刻	内 容	場 所	指 導
7:00	朝食	民宿	
9:00	青木沢峠を開ける ・草や低木を刈り払う ・木を短く切り、片づける	青木沢峠	林久さん 林親男さん
12:00	昼食、アンケート	幸新	
13:30	ゴミ拾いなど	師入・原集落	
15:32	たにがわ446(上毛高原駅)		

問合せ・申込み:「森林塾青水」事務局 コミュニティ・デザイン内(浅川潔)

ファクス03-3408-8670 E-mail: Info@commonf.net

**締め切り8月7日**

## 編集後記 - 塾長のつづやき -

去る3月末のこと、川端大兄から思いもかけぬ嬉しいお電話をいただいた。「泡銭が入ったので、森林塾に寄付します。」丁度、新年度の事業収支をどうするか検討していた時期のこと。川端さんの仏頂面（失礼）が打ち出の小槌をもった恵比寿様のように見えた。「なに、泡銭であるものか。ご芳志、きつと活かすべし。」と心に誓ってスタートした新年度であった。

あれからあつという間に3ヶ月が経過、企業で言えば第・4半期が終了。オープニングプログラムは復活3年目の野焼き。続いて、ミズナラ林内の旧・木馬道（キンマミチ）の再生。6月には滝へ至る道も作り終えた。そして、川端さんの“泡銭”は幹事会決定をもって新兵器・GPSに変身。「藤原ガイドマップ」作りに威力を発揮してくれることだろう。

6月初め、野焼きから1ヶ月经過したフィールドをのぞいてみた。ススキやワラビの新芽が早くもぐんぐんと生育中。特に、火入れしたエリアの緑が濃く、焼いてないエリアとの差は歴然。効果抜群の感あって意を強くした。

かくして、新年度・第クォーターの船出は一見、順風満帆。しかし、他方で未解決のままの課題や新たに対策を要する問題など逆風も。

逆風の最たるは気まぐれな気候。地元の萬枝さん達にお天道さまと相談づくで、ギリギリの読みをしていただきながら決めた野焼き予定日の4月29日。その10日前には除雪作業＝防火帯づくり終了。そして、あと1週間余りの乾燥期間という最中の26日になって思わぬ降雪。昨年に続き、今年も1週間延期の止むなきに。

大自然を相手に、日を決めて、東京から人を集めてやろうとする現代版野焼きのむずかしさを痛感。数年かけてでも、防火帯を人工的に造作し、雪解けを待って火入れをしたほうがよいのでは？いや、それでは残雪を防火帯とする当地固有の風物詩にならないし。はてさて、どうしたらよいものやら。

他にも、嬉しい悲鳴に近い問題が。野焼き効果で生育がよくなったワラビ目当ての山菜とりの集団がわんさか！！ 曜日を問わず、毎朝早くから車で乗りつけ、雲霞のごとくフィールドに分け入るのでワラビが伸びる間もなく摘み取られてしまう。

おまけに、広場や水汲み場の周辺は空き缶・ビン類や煙草のスイガラだらけ。そして、心ならぬ人達は車で管理道の奥深く入り込み、ペット犬を遊ばせて糞はそのまゝ。「取ってよいのは写真だけ、残してよいのは足跡だけ」なんて、まったく通用しない。

土地の所有者＝地元・住民＝管理者＝利用者であった昔の入会いと違って、今日の入会いは所有者と管理者と利用者が異なる複雑な関係。上の原のフィールドの場合、山菜採りや水汲みといった利用者の過半は町外の一般市民であり、野焼きやカヤ刈りといった管理活動にはいっさい参加しない。車利用の日帰りだから民宿利用等地元観光振興にも何ら貢献しない。少し大袈裟にいうと、山賊・海賊の類いの困った存在。

このままでは、町と連名で『関係車両以外 進入禁止』の看板でも出さざるを得ない。現代版入会い＝日本版コモンズ形成の道遠しの感。

野焼きの数日後、大畑さんから「茅刈りの11月11日、何と残念なことでしょう。杉並にある視覚障害者を支援する団体のチャリティーコンサートの予定が入りました。」とのお便り。それに、声をのむ ただ立ち尽くす 野焼きかな、の佳句（1頁参照）が添えられていた。

野焼きの翌日、大畑さんや仲間の皆さんと末黒野を歩いた時の何とも言いがたい快感を思いだした。

焼野ゆく ほのかなる<sup>ぬく</sup>温み 足裏に  
野を焼いて 心の<sup>ほむら</sup>炎 鎮めけり

（青）

